

9 進路に満足する基準は何か

奥屋 友紀子

はじめに

進路先の満足度には何が影響しているのだろうか。私は就職活動を始め、どんな進路に進めばより満足する結果が得られるのか考えるようになった。大手に行けば満足なのか。福利厚生がいいから満足なのか。はたまた、就職できただけで満足なのか。一方、就職という進路は選ばずに、進学などほかの道に進んだ人もいる。人によって答えはさまざまである。そこで、同志社大学の卒業生はいったい何を基準に進路先を「満足」としているのか。これをテーマに分析を進めていこうと思う。

9.1 仕事上の立場と働き方

卒業生の進路先の満足度には何が影響しているのか、いくつか仮説をたてる。まず、卒業後の進路先と進路先の満足度の関係性を軸に考えてみよう。

卒業後の進路について、「民間企業に正社員として就職」もしくは「公務・教職に正職員として就職」した人のほうがその他の項目に当てはまる人よりも満足しているのではないかと仮説をたてよう。

ここで「民間企業に正社員として就職」と「公務・教職に正社員として就職」を選らんだ理由は、一般的に他の項目に比べ安定した職であるとともに、就職先として第一志望にしている学生が多いのではないかと考えたからである。そこで、問29と問26の「民間企業に正社員として就職」と「公務・教職に正社員として就職」のふたつの項目に注目した。

次のページのクロス表にあるように、全体で「満足」と回答した人は53.1%であったのに対し、「民間企業に正社員として就職」した人で「満足」と回答した人は52.7%とほぼ変化が見られない。よって、「民間企業に正社員として就職」した人は、全体に比べてより満足しているという訳ではない。同様に「公務・教員に正職員として就職」した人は79.3%と「満足」と回答した人が大きく増えたが、民間企業就職者に比べ、公務・教職への就職者は絶対数にかなりのひらきがあるため比較が難しい。

また、私は、正社員のほうが派遣・契約社員に比べ満足度が高いものだと思っていたが、「民間企業に正社員として就職」した人で「満足」と回答した人は52.7%だったのに対して、「派遣・非常勤・パート」として就職した人で「満足」と回答した人は35.7%であった。やはり、非正規職は満足度が低いのだろうか。しかし、ここで注意しなければならないのが、絶対数の違いである。「派遣・非常勤・パート」として就職した人は全数377に対して14とかなり少ない。よってここでは度数が少ないケースの結果はあまりあてに

しないことにしよう。

公務や教職に正式のポジションを得た人の「満足」が79.3%と高かったことは、公務・教職という就職先は資格職であるため、資格試験のための勉強など準備期間が長くかかる。そのため、民間企業への就職に比べると公務・教職への就職は達成感から満足度も高くなるのではないだろうか。

しかし、公務・教職以外にも司法書士や公認会計士の資格など準備期間のかかる資格はほかにもある。この表での「民間企業に正社員として就職した人」のなかにも、上記のような公務・教職に必要な資格ではない資格を取得した者はいるだろう。ただ、「民間企業に正社員として就職」した者の中で上記のような資格を取得した者は少ないと思われるためあまりデータに反映されていないのではないかとも思う。

なお、就職せずに大学院等に進学した人たちの満足度は高いとも低いともいえず、微妙な心境なのだろうか。また、やはりケースは少ないものの、進路が決まっていない人の満足度は低い。

卒業後の進路 と 進路への満足度 のクロス表

		進路への満足度			合計
		満足	どちらかと	どちらとも	
			いえば満足	いえない	
卒業後の進路	就職(民間企業の正社員)	144	81	48	273
		52.7%	29.7%	17.6%	100.0%
	就職(公務・教職の正職員)	23	5	1	29
		79.3%	17.2%	3.4%	100.0%
	就職(自営業・家業)	3	0	0	3
		100.0%	.0%	.0%	100.0%
	派遣・非常勤・パート	5	6	3	14
		35.7%	42.9%	21.4%	100.0%
	進学(大学・大学院)	15	13	6	34
	44.1%	38.2%	17.6%	100.0%	
その他	9	3	1	13	
	69.2%	23.1%	7.7%	100.0%	
決まっていない	1	0	10	11	
	9.1%	.0%	90.9%	100.0%	
合計	200	108	69	377	
	53.1%	28.6%	18.3%	100.0%	

p<.001

次に、就職先の働き方の違いにより満足度も変化するのではないか。私の周りの感覚からすると総合職を目指している友人が多いため、総合職に進んだ人のほうが満足度は高いのではないだろうか。

問29と問26(1)をクロス集計表にかけてみた。

q26_1[採用コース]と進路への満足度 のクロス表

		進路への満足度			合計
		満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	
q26_1[採用コ ース]	総合職	114	71	29	214
		53.3%	33.2%	13.6%	100.0%
	地域限定総合職	6	2	4	12
		50.0%	16.7%	33.3%	100.0%
	一般職	20	7	7	34
		58.8%	20.6%	20.6%	100.0%
合計		140	80	40	260
		53.8%	30.8%	15.4%	100.0%

「満足」と回答した人のパーセントを見てみると、「総合職」53.3%、「地域総合職」50.0%、「一般職」58.8%と、全体でも半数以上の人々が満足と回答している。

また、「満足」と回答した人と「どちらかといえば満足」と回答した人を合わせて考えてみた。「総合職」では86.5%、「地域総合職」では66.7%、「一般職」79.4%と少し差が出てきた。やはり予想通り「総合職」に進んだ人の満足度が高い。「どちらかともいえない」に回答した人も少なく不満度も低いといえる。

最も「満足」が多いのが「一般職」である。一般職に進んだ人数は少ないが、「一般職」に進んだ人ははじめから一般職を希望していた人が多いのではないかと。

ここで気になったのが、「地域総合職」だ。「地域総合職」は「どちらともいえない」に回答した人が33.3%と他の項目に比べ高くなっている。もしかすると「地域総合職」は「総合職」や「一般職」のように、はじめから第一志望の進路として考えられていなかったのではないかと思った。もしくは、「地域総合職」という進路に納得できていない人が多いということである。

また、全体的に見たときに、「地域総合職」、「一般職」と回答した人は人数が少ない。社会学部は、特に男子が多い学部ではないにもかかわらず、学生はほとんどが総合職に進むのに驚いた。

ところで、一般職と総合職では男女差があるのではないかと。女性の一般職は聞けるけれど男性の一般職はほとんどと言っているほど聞かない。ここで、男女の違いについてさらに詳しく見てみるため、性別を加味した三重クロス集計表にかけてみた(次ページ)。

q26_1[採用コース] と 進路への満足度 と q1[性別] のクロス表

q1[性別]			進路への満足度			合計
			満足	どちらかと いえば満足	どちらとも いえない	
男 性	q26_1[採用コ ース]	総合職	61 49.6%	42 34.1%	20 16.3%	123 100.0%
		地域限定 総合職	1 100.0%	0 .0%	0 .0%	1 100.0%
		一般職	2 50.0%	0 .0%	2 50.0%	4 100.0%
	合計		64 50.0%	42 32.8%	22 17.2%	128 100.0%
女 性	q26_1[採用コ ース]	総合職	52 58.4%	29 32.6%	8 9.0%	89 100.0%
		地域限定 総合職	5 45.5%	2 18.2%	4 36.4%	11 100.0%
		一般職	18 60.0%	7 23.3%	5 16.7%	30 100.0%
	合計		75 57.7%	38 29.2%	17 13.1%	130 100.0%

男女の絶対数は男性 128 名に対し女性 130 名と女性のほうが多いにもかかわらず、やはり「総合職」に進むのは男性のほうが多く、「地域限定総合職」と「一般職」は女性のほうが多い結果となった。

「満足」と「どちらかといえば満足」と回答した人を満足度が高いとみなし、合わせてみてみることにする。「総合職」では男性では 83.7%、女性が 91%と女性総合職のほうが男性総合職に比べ満足しているといえる。「地域限定総合職」では男性が 100%、女性が 63.7%である。「一般職」では男性が 50%、女性が 83.3%であった。ただし、「地域限定総合職」と「一般職」はともに男性の絶対数が 1 または 4 なのでこれは比較対象にならないだろう。

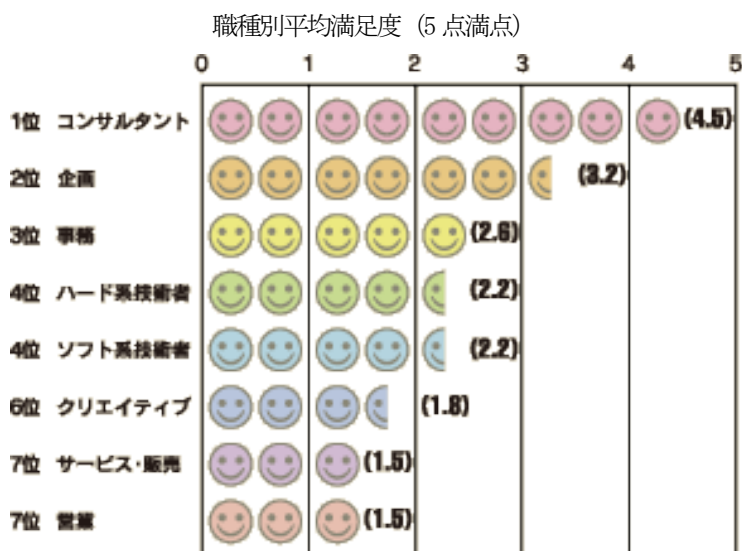
ここで私が着目したのは女性の満足度である。この表によると、「総合職」の満足度が一番高く、次いで「一般職」、「地域限定総合職」となっている。前ページのクロス表の結果と照らし合わせて考えてみても、同志社大学の女子学生はもともと「総合職」を志望している人が多いことが分かる。また、「一般職」にくらべ「地域限定総合職」の満足度が低いのは、「一般職」は初めから志望して進んだ者が多いのに対し、「地域限定総合職」は「総合職」に進めず、「地域限定総合職」に進むことになったからではないかと考えた。「地

地域限定総合職」といえば、私が知る限り損保や銀行など金融機関に多い採用コースである。例えば、第一志望はメーカーなど他業界であったが、結果的に金融機関に勤務することになったという話をよくきく。このような進路決定の過程がデータに表れているのではないだろうか。女性のうち、「どちらともいえない」と回答したものを比較しても、「総合職」9.0%、「地域限定総合職」36.4%、「一般職」16.7%と同じ結果になっている。

私は「総合職」のほうが「一般職」よりも満足度が高いのではないかと予想したが、それは男女によって差があることが分かった。志望採用コースの違いもあり、一概に「総合職」のほうが「地域限定総合職」より満足度が高いとはいえないだろう。しかし、全体的にみると、同志社大学の学生は「総合職」に就職する人が多く、満足度も高いといえる。

9.2 職種の影響

進路満足度には就職先の職種も影響しているのではないだろうか。リクナビ NEXT に掲載されていた「時給・年収・満足度ランキング2007」(http://next.rikunabi.com/02/database_rank2007/database_rank2007_2.html)によると、サービス業、販売業、営業職は満足度が低い。それに比べて事務職は満足度が3位と比較的高い。リクナビ NEXT は転職希望者向けのサイトであるため、まだ働きはじめていない学生とは内容が異なると思うが、似たような結果になるのではないかと予想した。ちなみに、リクナビ NEXT では満足度は年収や月間労働時間によって異なると述べている。



ここで、問29と問26(2)に性別を加味したクロス集計表を出してみた(278-279ページ)。リクナビNEXT

ではサービスと販売が同項目になっているのに対し、卒業生調査では営業と販売が同じ項目になっている。また、卒業生調査では企画やコンサルタントなどの項目がないことや、卒業生の多くは職種がまだ定まっていないことから、リクナビNEXT との比較は困難である。しかし、その限定の上で、満足度を見てみよう。上記と同様、「満足」と「どちらかといえば満足」を満足度の高い人とみなして考える。この表でまず着目したのは「技術職 (SE 職)」である。男性70%に対し、女性は81.9%と男性より満足度が高い結果になっている。人数も男性が10名に対し、女性が11名と女性のほうが1名多い結果となっている。先日、SE 職の説明会に参加したのだが、以前は男性職というイメージだったが、近年は女性のほうがきめこまやかな提案ができるということで女性のSE が重宝されているというお話をうかがった。「技術職」というと理系で男社会なイメージがあったのだが、私の聞いた話は本当だったのだと思った

職種 と 進路への満足度 と q1[性別] のクロス表

q1[性別]		進路への満足度			合計
		満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	
男性	職種 決まっていない	25	12	3	40
		62.5%	30.0%	7.5%	100.0%
	事務職	11	5	6	22
		50.0%	22.7%	27.3%	100.0%
	営業職・販売職	20	19	12	51
		39.2%	37.3%	23.5%	100.0%
	技術職(SE職)	1	6	3	10
		10.0%	60.0%	30.0%	100.0%
	サービスの仕事	5	1	0	6
		83.3%	16.7%	.0%	100.0%
教員	1	2	1	4	
	25.0%	50.0%	25.0%	100.0%	
マスコミ関係	4	1	0	5	
	80.0%	20.0%	.0%	100.0%	
介護・福祉関係	1	0	0	1	
	100.0%	.0%	.0%	100.0%	
その他	6	1	1	8	
	75.0%	12.5%	12.5%	100.0%	
合計		74	47	26	147
		50.3%	32.0%	17.7%	100.0%

女性	職種	決まっていない	14	10	3	27
			51.9%	37.0%	11.1%	100.0%
		事務職	32	9	6	47
			68.1%	19.1%	12.8%	100.0%
		営業職・販売職	18	10	9	37
			48.6%	27.0%	24.3%	100.0%
		技術職(SE職)	5	4	2	11
			45.5%	36.4%	18.2%	100.0%
		サービスの仕事	9	3	0	12
			75.0%	25.0%	.0%	100.0%
		教員	4	1	1	6
			66.7%	16.7%	16.7%	100.0%
		マスコミ関係	6	3	0	9
			66.7%	33.3%	.0%	100.0%
		介護・福祉関係	5	3	1	9
			55.6%	33.3%	11.1%	100.0%
		その他	7	4	2	13
			53.8%	30.8%	15.4%	100.0%
合計			100	47	24	171
			58.5%	27.5%	14.0%	100.0%

次に着目したのは「マスコミ関係」である。人気業界であることから満足度も高いのではないかと推測した。表を見てみると、男性・女性ともに100%と予想通りだった。

また、「事務職」では男性が72.7%、女性が87.2%と女性のほうが満足度が高くなっている。これは、先ほどの採用コース別満足度と関係しているのではないだろうか。というのも、「一般職」は主に事務職をすることが多いからだ。「一般職」に進んだもののうち、男性より女性のほうが満足度が高い結果となっていたが、「一般職」≒「事務職」と考えるとこの結果は納得できると考えた。「営業職・販売職」では男性76.5%、女性75.6%とほぼ同程度である。

この表から、満足度は職種によって異なることはわかったが、項目において営業職と販売職が同じ項目として扱われていることからデータ全体での相関性は低いだろう。アパレル販売員（販売）と広告代理店の営業マン（営業）を比較してみても、その仕事内容は明らかに異なっており同項目として考えるのは難しいと思う。

9.3 働く環境や条件の違い

私は就職活動をするにあたり、親がほかの人に話せる程度に知名度がある、または業績がいい企業に入りたいと考えている。リクナビなど就職活動サイトのアンケートにも「企業の規模にこだわるか」、「知名度にこだわるか」といった項目を見ることができ、学生の多くはある程度、企業規模や知名度に気を取られているのではないだろうか。そして、そういった企業に進む学生のほうが他に比べ、満足度が高いのではないかと仮定した。

わかりやすい指標として、「東証一部に上場している」企業はそういった企業にあてはまると考え、問29と問26(4)aをクロス集計表にかけてもみる。また、今までの分析結果から、満足度には男女差があるのではないかと考えて、3重クロス表を出力した。

q1[性別]とq26_4a[企業の環境: 東証一部上場]と進路への満足度のクロス表

q1[性別]			進路への満足度			合計
			満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	
男 性	q26_4a[企業の環境: 東証一部上場]	あてはまる	44	21	7	72
			61.1%	29.2%	9.7%	100.0%
	あてはまらない	31	25	19	75	
			41.3%	33.3%	25.3%	100.0%
合計			75	46	26	147
			51.0%	31.3%	17.7%	100.0%
女 性	q26_4a[企業の環境: 東証一部上場]	あてはまる	43	21	12	76
			56.6%	27.6%	15.8%	100.0%
	あてはまらない	49	25	12	86	
			57.0%	29.1%	14.0%	100.0%
合計			92	46	24	162
			56.8%	28.4%	14.8%	100.0%

男性のみ p<.05

上の表から興味深い結果が得られた。男女とも東証一部上場企業に就職している人は約半数ずつであるが、「満足」と「どちらかといえば満足」をたすと、上場企業に就職した男性の90.3%が満足しているのに対して、女性は84.2%が満足と答えており、銘柄企業に就職した満足は男女ともに高いことに変わらないものの、やや男性の方がブランド志向が強いことがわかった。その分、女性には他の基準があるのだろう。ただし、上場企業以外に就職した人の満足度も決して低いとはいえず、その意味では相関は低いといえよう。

他方、一般的に大企業とされる企業でも東証に上場していない企業はあるので、まったく関係がないというわけではないだろう。私は大企業かどうかではなく、自分に合った企業に進むことができるかどうかが重要であるとする。

近年女性の社進出も進み、女性にとって進路先企業の育児制度が整っていることはこれまで以上に重要視されるころだろう。また、就職活動を通じ感じるのだが、女性にとって働きやすい環境が整っている企業は、経営が安定しており福利厚生が整った企業であることが多いのではないだろうか。女性が働きやすい企業では、福利厚生がしっかり整っているという意味でも、男女と問わず満足度が高いのではないかと仮定した。そこで、問29と問26(4)cに性別を加味して三重クロスにかけてみた。

q1[性別]とq26_4c[企業の環境: 育児休暇がとりやすい]と進路への満足度のクロス表

q1[性別]	進路への満足度			合計
	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	
男 q26_4c[企業の環境: 育児休暇がとりやすい]	あてはまる 55 64.7%	24 28.2%	6 7.1%	85 100.0%
性	あてはまらない 19 33.3%	17 29.8%	21 36.8%	57 100.0%
合計	74 52.1%	41 28.9%	27 19.0%	142 100.0%
女 q26_4c[企業の環境: 育児休暇がとりやすい]	あてはまる 71 59.2%	31 25.8%	18 15.0%	120 100.0%
性	あてはまらない 23 54.8%	13 31.0%	6 14.3%	42 100.0%
合計	94 58.0%	44 27.2%	24 14.8%	162 100.0%

男性のみ p<.001

男女ともに「育児休暇がとりやすい」に「あてはまる」と回答した人のうち、多くが「満足」と回答している。一方、表からもわかるように「あてはまらない」と回答した者は「あてはまる」に回答した人と比べ満足度が低い。この結果から、私の仮定は大筋で筋が通っていることになる。

しかし意外なことに、男性のほうがデータとしてより相関があることが分かった。また、育児休暇がとりやすいかどうかという尺度は主観的な判断なのか、数値的な判断なのかこのデータからは推測することができないため、個人によって「とりやすい」の基準は異なるのかもしれない。

最後に、給料によって満足度は変化するかどうかを検討したい。友人と話していても「〇〇業界は給料安いからな」や「金融あんま興味ないけど年取ったらめっちゃ給料上がるし」という言葉を耳にすることがある。給料が高いほうが満足度も高くなるのではないだろうか。そこで、就職先を選んだ基準として「給与」を挙げている学生は、進路先の満足度が高いのではないかと仮定し、問29と問26(5)に性別を加えてクロス集計にかけてみた。

q26_5_3[就職先への応募理由: 給与] と 進路への満足度 と q1[性別] のクロス表

q1[性別]	進路への満足度			合計
	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	
男 q26_5_3[就 あり	29	20	11	60
性 職先への	48.3%	33.3%	18.3%	100.0%
応募理由: なし	47	27	17	91
給与]	51.6%	29.7%	18.7%	100.0%
合計	76	47	28	151
	50.3%	31.1%	18.5%	100.0%
女 q26_5_3[就 あり	21	14	7	42
性 職先への	50.0%	33.3%	16.7%	100.0%
応募理由: なし	81	33	17	131
給与]	61.8%	25.2%	13.0%	100.0%
合計	102	47	24	173
	59.0%	27.2%	13.9%	100.0%

就職先への応募理由の「給与」に「あり」と回答した人の満足度は、男性81.7%、女性83.3%に対し、「なし」と回答した人の満足度は、男性81.3%、女性87.0%であった。この結果により、就職先への応募理由に給与を挙げている人とそれ以外の人の満足度にはほとんど差がなく、私の仮定は正しくないことが分かった。ただ、これも先ほどと同様に、企業選びの際に「給与」を考慮していたとしても、個人によって望む給与額は異なる。大半は高いほうが嬉しいとは思いますが、「この額を超えれば基準を満たす」という額は人それぞれである。そのため、この尺度ではかろうとしたのは間違いだったのかもしれない。

9.4 まとめ

私が分析に際してたてた仮説は、大筋であてはまっているといえる。仮説検証により分かったことを以下に整理してみよう。

Q 正社員のほうが非正規社員に比べ、進路先の満足度が高いのではないかと。

→同志社大学の学生はほぼ正社員として就職している

Q 民間企業よりも公務・教職に就職した人のほうが満足度が高いのではないかと。

→「民間企業に正社員として就職」した人と「公務・教職に正社員として就職」した人を比較すると、民間企業に就職した人で「満足」と回答した人は52.7%だったのに対し、公務・教職に就職した人は79.3%と高かった。よって、ここでは資格職である公務・教職に就職した人のほうが満足していると言える。

Q 「総合職」>「地域限定総合職」>「一般職」の順で満足度が高いのではないかと。

→それは男女によって差があることが分かった。男女間の志望採用コースの違いもあり、一概に「地域限定総合職」より「一般職」の満足度が低いとはいえないだろう。女性においては「地域限定総合職」よりも「一般職」の満足度が高い。しかし、全体的にみると、同志社大学の学生は「総合職」に就職する人が多く、満足度も高いと言える。

Q 就職先での職種として、販売や営業職よりも、事務職の方が満足度が高いのではないかと。

→そもそも男性の場合、就職先の職種が決まっていない人が多い。ただし、営業・販売職の満足度が低いことはいえる。女性の場合、事務職が多く、これは一般職への高い満足度と重なっていると考えられる。

Q 育児休暇をとりやすい企業に進んだ人のほうが満足度が高いのではないかと。

→男女ともに「育児休暇が取りやすい」に「あてはまる」と回答した人のうち、多くが「満足」と回答している。よって、育児休暇が取りやすい企業に進んだ人のほうが、そうでない人に比べ満足度が高いと言える。ただし、そもそも「育児休暇が取りやすい」は他の条件も良い銘柄企業であったり大企業であることが多い点も考慮に入れる必要があるだろう。

「進路先の満足度には何が影響しているのだろうか」という当初の問いに対し、男女の違いや、もともとの進路志望の違いによって異なることが分かった。一概に大企業にいったから満足というわけではない。今回の調査を通じ、条件が進路満足度に影響しているというよりも、本人の志望に沿った就職ができるかどうかが一番影響しているのだと思った。